

北海道札幌  
農辰科大學  
八田三郎

校  
台  
張



九月廿二日



大阪市西區南堀江通壹丁目  
勝本忠兵衛

おまじの一日おき後

従来為任勸告の通り

人たる親類一と山妻と

共々急務に別あり

勝手品の為め一日も

常務の副職に在ると

実を言ふと申すに無理也

相續し以て此期に承

授受とせしに委由

あり故に徐うに却る方

医師の勸告に依るべき

を以てたに五月五日

五月五日

往生御一尾の水生を

翠中(遊)退書相認め

一と一と持来せ一め

小島氏と御息子の御

采女たりしとて御定

為橋政和女島女命

さす心来定辞表と

持来したるは付更と又

一と一と取おてるは若

男を御あしめ玉渡し

引返しし申事御

心は系止むと御

了次入極内内、ら



了るは、業止むと、録が

了るは、業止むと、録が

比竹御書と

平佐監査後

加為余請ふ也

此人を孝初入社せしめや色  
の秘書となん考ありしに  
ヒヨ、一言の下に拒絶せられた

一人  
一紙の辨定と振と平佐文

測一ホと極る熟議比際

初氣、托し辭職するに力盡

得策あり常務を辭する也

取締役として任する事

切棟主として申譯する事し

辭職前全の竹策と一決

決行仕りて、即刻

大見井出氏、其後、後修

切株主にも申譯上つし  
辭職前全の竹葉と一決

決行仕り奉る即刻

大見井出氏に書及後修

辭職を總一の報

一の申上りて不承知

形多分申上り

十月八日  
速返

八田大見氏

今朝寢醒めよる迄も

清々体

初気は大した事にて

お見ゆらば

はと齋大井氏